

2024-25 年度 第2650地区スローガン
持続可能なロータリーに！ 共に学び、共に行動
Make Rotary Sustainable! Learn together Act together

第2650地区 [1961.3.28創立]

YAMATOTAKADA ROTARY CLUB

| | |
|----------|---------|
| 会 長 | 池 木 啓 仁 |
| 副 会 長 | 中 井 謙 之 |
| 幹 事 | 丸 野 正 徳 |
| 会報・資料委員長 | 杉 村 喜 之 |

クラブHP <http://yamatotakadarc.org/> アドレス ytrotary@abelia.ocn.ne.jp

地区HP <http://rid2650.gr.jp/> Facebook <https://www.facebook.com/yamatotakada.rc/>

例会日時：毎週火曜日 12時30分 例会場所：経済会館 3階大ホール
事務所：〒635-0095 大和高田市大中 106-2 経済会館 4階 TEL 0745-52-4366 FAX 0745-23-3823

第34回(通算3033回)2025年(令和7年)4月22日号

本日の例会(4月22日)

「日々感動を求めて」
(株)ダイワマネジメント
キャリアコンサルタント 片岡佳永 様

次回の例会(5月13日)

「仕事で自分を磨く」
(有)和光研磨 阿部潤二 様

4月15日の例会報告 会長の時間

本日は、吉田ガバナー補佐をお迎えしております。例会前に本年度の事業経過報告などを通じまして、いろいろとご指導いただきました。本日は大変お忙しい中、ありがとうございました。

さて、私も含めて高齢の経営者にとりましては、幾分、昭和の概念が残っているのですが、昨今の労働時間に対する「一日の終わり」の概念というものは随分と変わりました。私が経験してきた社会人生活では、一日の終わりとは、仕事が一段落したときの時間でございました。しかし、今は雇用契約における就業時間が終われば一日の終わりと解釈されます。そして、法律上では、残業なども含めて1分単位で賃金を支払わなければなりません。

それでは、仕事が終わっていない場合はどうするのか。今はセキュリティやコンプライアンスの関係で、家に仕事を持ち帰るのが大変難しい時代です。そうなれば、「まだできていないのか」と叱責するかと、これも言い方を間違えてしまえばパワハラになってしまいます。「早く帰れ」と「まだできていないのか」は両立できないわけです。

就業時間の業務効率化のために、ITやDXがもてはやされています。しかし、これについても、いかに優れたシステムであっても、着信したメールや資料などをタイムリーに見ていない場合や、システムが本来求めている価値、ルールを十分に熟知していないなどの問題が横たわったままでは、双方向のコミュニケーションがうまくいかない場合があります。合理化と手抜きはまるで意味が違います。つまり、「任せたで」と「ほったらかし」は紙一重なのです。業務効率化のために、DX、いわゆるデジタルトランスフォーメーションを導入するのであれば、なおさら、報告・連絡・相談、いわゆる報・連・相が本当に大切になってきたと考えております。

幹事報告

◎納税協会駐車場の件

駐車場をご提供いただいております納税協会様より、変更になった鍵をお預かりいたしました。引き続き納税協会の駐車場はご利用いただけます。

◎大船渡大規模山林火災被害支援のお願い

先週、募金箱を回しましたところ、皆様のご厚意により、10万6000円の募金を頂きました。早速、4月8日、RI第2650地区災害対策基金に入金させていただきました。皆さん、どうもありがとうございました。

ゲスト

吉田勝亮様(第2650地区ガバナー補佐)

岡本高昌様(地区ローターアクト代表)

竹岡遼弥様(大和高田RAC)

誕生日祝

世古千代子会員(4月18日)

2650地区より会員歴50年以上表彰

村島靖一郎会員



委員会報告及びその他報告

◎社会奉仕委員会 吉岡弘修委員長

本日例会終了後、最終の打合せをいたしますので、参加予定者の方はお残りください。その際、ロータリークラブのジャケットをお配りいたしますのでお持ち帰りください。当日は9時からしか開館できないため、開場と同時に受付となります。前日の19日18時から準備させていただきます。1時間程度で終わると思いますので、ご協力の程お願いいたします。

◎趣味の会委員会 垣本喜己委員長

明日、花吉野カンツリー倶楽部で南輪会ゴルフコンペを開催いたします。ご参加の方はスタート時間の30分前までに受付をしていただきますようお願いいたします。

6月7日(土)大和高田ライオンズクラブと大和高田RCでローラー会のゴルフコンペを開催いたします。また、6月12日(木)には趣味の会ゴルフコンペを花

4つのテスト〔言行はこれに照らしてから〕

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

○高田地区情報集会 西田陽昭世話人
4月22日(火)6時から辻甚で情報集会を開催いたします。変更等ございましたら、私か鶴山会員、または事務局までご連絡をお願いいたします。

奈良第2グループガバナー補佐 吉田勝亮様
・吉田ガバナー補佐、本日のご訪問ありがとうございます。先週の第2グループ会長・幹事会では、大変お世話になりました。池木啓仁会員
・誕生日、結婚祝いを頂きありがとうございました。感謝の気持ちをさらにふくらませて頑張ります。今日は国際奉仕の発表、頑張ります。高木美香会員
・本日はローターアクトの国際事業の発表の時間をいただき、ありがとうございます。川中教正会員
・第5回クラブフォーラム(国際奉仕)、高木国際奉仕委員長、岡本ローターアクト地区代表、卓話楽しみにしております。丸野正徳会員
・岡本ローターアクト地区代表、よろしく願いします。鈴木勝士会員
・高木様、卓話楽しみにしています。

世古千代子会員

- ・本日、ローターアクトの発表で当社社員が担当します。皆様、聞き苦しいところはあると思いますが、よろしく願います。川村英亮会員
- ・岡本君頑張ってください。松村裕玄会員
- ・當麻の練り供養、菩薩への道は大変でしたが、多くの人が支える日本の伝統文化にありがたく感謝です。杵村喜芳会員
- ・杵村さん、牧浦さん、昨日はありがとうございました。川中光教会員
- ・川中会員お二人には大変お世話になり、ありがとうございました。牧浦 徹会員
- ・先日、孫のお食初めを祝いました。酒本將稔会員

高木美香国際奉仕委員長
本年度のカナダ・カルガリーで
行われる国際大会につきまして
は、人数が集まらなかったため、
中止とさせていただきました。申し
訳ございませんでした。

大和高田市とオーストラリアリズモー市との関わりは、1963年から始まりました。第二次世界大戦において日本からの攻撃を受け、反日感情がまだ残っていたオーストラリアでしたが、1952年に高田カトリック協会にリズモー市からパウロ・グリーン牧師が就任されました。そこで、1963年に、日本に幼稚園が必要と感じた牧師と、その当時の名倉大和高田市長が共同で提携を始めたのがきっかけとなっております。

その後、数多くの交流がございましたが、コロナ禍により交換学生が中止となり、行事が途絶えておりました。近年は水害に対し、大和高田RCから義援金を送るなどしております。

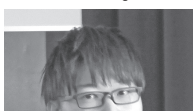
私自身、国際奉仕委員長を3回も務めさせていただきましたので、当クラブの65周年に間に合うよう、何らかの形で交流再開に向けたご報告をしたいという思いを持っております。リズモー西RCを訪問したいと言っている会員の方も多くいらっしゃいますので、まずは4月29日にはZoomにて交流し、未来につなげるように国際奉仕を頑張っていきたいなと思っております。

岡本高昌第2650地区ローターアクト代表
RI第2650地区のローターアクト
クラブは、2025年2月22日から2
泊3日の行程で香港へ海外研修
に行っていました。大和高田R
ACからも4名参加させていただきました。大和高田RCの皆様からも
ご支援をいただきましてありがと
うございました。

この海外研修はコロナ前からストップしておりましたが、今回、私が地区代表になって復活させていただきました。2月22日から24日の3日間、RI第3450地区の香港に行っていました。参加者はローターアクター10名、ロータリアン4名、ほかローターアクターの友人1名の計15名でした。RI第3450地区は香港、マカオ、モンゴルと中国の一部を含む、大変広い地区となっております。ロータリークラブは、香港に84クラブ、マカオに8クラブ、モンゴルに21クラブ、総勢2800名程度のロータリアンが活動されています。

今回、一緒に奉仕活動をしたのはヴィクトリアRCと同RACです。現地で行った奉仕事業は、ご寄附いただきました物資を、ホームレスの方や貧困世帯の方にお配りするという活動です。物資は、食料品や日用品ですが、ただお渡しするだけではなく、生活の様子をお尋ねし、広東語で「あなたが健康でありますように」と声をかける活動でした。

路上生活者の方が寝ていらしたら、無理に起こすのではなく、支援物資を置かせていただいて、メッセージカードを添えて離れるなど、配慮をさせていただきました。



大和高田RAC 竹岡遼弥様
私も一緒に支援活動をさせていただきました。現地のヴィクトリアRAC、RACの方から教わりましたのは、ただ物資を渡すのではなく、被支援者の方の笑顔と手のひらをしっかりと見てくださいということでした。まずコミュニケーションを取って、笑顔を見てから物資を渡します。そして、手のひらをしっかりと触って、どういった苦労をされているのか、困っているのかというのをお尋ねした上で支援物資を渡しました。

[illegible]